

「研究テーマ」

新聞を活用した様々な学習活動

兵庫県立家島高等学校 校長 岡野 敦

教諭 平川 沙貴

1 はじめに

兵庫県立家島高等学校は、姫路の沖合 18 kmの瀬戸内海東部に位置する家島諸島で唯一の高校である。1 学年 1 学級の小規模校であるが、「海の学校」として特色ある教育を行っている。

以下、N I E 指定校となって 2 年目となる本年度の実践について報告を行う。

2 実践にあたって

新聞の配置

本校では、図書室に新聞を配置しており、生徒たちは昼休みに新聞を読みに来る。一般紙だけでなく、経済新聞など、3 種類の新聞を置くようにしている。

生徒たちは、「家でとっていない新聞を学校で読むことができている」「経済新聞はあまり読む機会がないので新鮮」などと言っている。

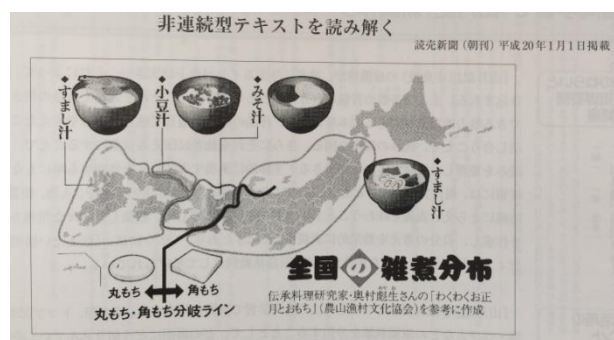
3 実践内容

(1) 第 3 学年「地域社会Ⅱ」の取り組み

本校では、学校設定科目として「地域社会Ⅱ」という科目がある。主に、自分たちの住む家島や姫路地域のことを調べ、それを文章にしてまとめる活動を行っている。

この授業の中で、日本新聞協会発行の「学習指導要領に沿って 新聞活用の工夫 提案—N I E ガイドブック高等学校編」を活用した授業を行った。

その中の「全国の雑煮分布」の図表を用いた。



N I E ガイドブック高等学校編 17 ページ

授業の指導案 (1 時間)

	学習活動	指導上の留意点
導入 (5 分)	・図表からどのようなことがわかるか考える	・わかったことから、なぜそうなっているのか、原因を考えさせる
展開 (40 分)	・インターネットで情報を集める ・自分の考えをワードにまとめる	・情報の出典を明確にさせる ・調べたことをそのまま書き写すだけにならないように注意させる
まとめ (5 分)	・調べた結果、わかったことを確認する	・意見を全体で共有させる

生徒たちは、全国の雑煮分布図から地域によって雑煮のだしや、もちの形が違くと

いう事実を読み取り、「なぜそうなっているのか」の原因を探り、その上で「自分たちの地域ではどうか」を自然に考えることができていた。

生徒がまとめたレポートでは、「家島ではすまし汁に丸もちの雑煮を食べるが、関西では白みそに丸もちが多いことがわかって驚いた」という意見が出ていた。



N I Eガイドブック高等学校編

(2) 第2学年「国語表現Ⅰ」の取り組み

ア. 新聞記事の要約

最初は、新聞記事を読み「要約をしよう」と言っても、「私はこの記事を読んで〜と思った」と、意見を書いてしまう生徒や、何も書けない生徒がいた。要約と意見文の違いがわかっていない生徒がいたため、「要約は短くまとめることで、自分の意見を書くのではない」と何度も伝えながら実践を行った。

要約の練習段階として、全く書けない生徒に配慮して、「必ず50字以上書くこと」から始めた。そして100字、150字…と段々、要約の制限文字数を増やしていった。要約の練習を何度も継続して行うことで、生徒たちは自然と文章の重要な部分に線を引きながら読むようになり、ポイントを絞って

まとめられるようになった。その結果、必要な要素を過不足なく押さえた要約文が書けるようになってきた。要約文を全く書けず、白紙で提出していた生徒はいなくなったことが一つの成果だと言える。

イ. 沖縄についての学習

2年生が修学旅行で沖縄を訪れるにあたって、その事前学習に新聞記事を活用した。

<記事の内容>

- ・太平洋戦争末期に沖縄県知事を務めた兵庫県出身の島田勲氏について
- ・陸軍病院壕について

新聞には、陸軍病院壕内部の様子再現として、寝台などの写真が載っていたため、生徒たちは興味深そうに見ていた。生徒たちに記事を読んだ感想を書かせた。

以下、生徒たちの感想から抜粋

- ・自分たちは平和な時代に生まれてよかったと思った。
- ・動けない兵士を、青酸カリの入ったミルクを飲ませて殺したことを知って、ひどいと思った。
- ・当時の病院の寝台を再現した写真を見て、「こんな狭い場所で寝ていたなんて、信じられない」と思った。

新聞記事で学習した後、映画「ひめゆりの塔」を鑑賞した。

新聞記事で読んだことを、映像で確認し、生徒たちの戦争に対するイメージもより深まった。新聞記事での学習だけに終わらず、視覚教材との併用により、効果的に学習することができた。

修学旅行では、「アブチラガマ」という陸軍病院壕を訪れ、実際に目で見て雰囲気を感じることができた。壕の中で灯りを消すと、真っ暗になり、生徒たちは「実際に壕の中に入ってみると、本当に真っ暗で驚いた。当時の人たちがこんな中で過ごしていたのかと思うと本当にすごいと思う」と話していた。

このように、沖縄の平和学習の導入として、新聞記事を用いることで効果的に学習できた。

(3) 長期休暇中の取り組み

ア. 新聞スクラップ

第1学年「科学と人間生活」の夏休みの課題として、「原発」に関する記事を「新聞スクラップ」の形でまとめさせた。「新聞スクラップ」では、レポート用紙に新聞記事を貼り、わかったことや、自分の意見を書かせた。

普段あまり新聞を読まない生徒にも、多くの新聞記事から「原発」の記事を探す作業を通して、新聞に親しみを持たせるきっかけとなり、「原発」を身近な問題として考えさせる機会を与えることができた。

イ. 新聞感想文コンクールへの参加

国語科の夏休みの課題として、全学年で「新聞感想文」に取り組ませた。

生徒たちが取り上げた主な記事の内容は以下のようなものである。

- ・スマートフォンからの投稿によるネット炎上事件
- ・ネット依存の高校生について
- ・広島や長崎について
- ・宮崎駿監督の引退について

・特別警報について

時期が夏休みということもあり、広島や長崎の記事から「平和」について考えた生徒や、公開された映画が話題となった宮崎駿監督に関する意見が多く出た。

また、本校では防災教育の取り組みを行っているため、「特別警報」に関して取り上げる生徒もいた。

その中でも最も多かったのは、生徒たちと同世代である高校生や大学生が引き起こした、ネット上での画像投稿による炎上事件について取り上げた内容である。

以下、生徒感想文から一部抜粋

(飲食店のアルバイト店員が冷蔵庫の中に入った写真をツイッターに掲載したことで炎上した事件について)

このような事件が起きるのは、なぜなのでしょう。ストレスの発散、目立ちたいから、何か刺激が欲しいから、そんな好奇心から起きてしまうのではないのでしょうか。アルバイトでの悪ふざけが、こんな形でニュースになるのは許されないので、とても残念に思います。私は、このような若者ばかりだと思われるのは困るな、と思いました。アルバイトでも責任と自覚を持つべきだと思います。

(2年・男子生徒)

このように、アルバイトをしている生徒にとっては、同世代が引き起こしたネット炎上事件が身近に感じられたのだと考えら

れる。

新聞感想文を書くにあたって、家庭で新聞を購読していない生徒も、祖父母の家でとっている新聞を使ったり、学校の古新聞を利用したりして、課題に取り組むことができた。

(4) 記者派遣事業

時事通信社から来てもらった星田淳一・神戸総局長に3年生を対象に授業を行っていただいた。

生徒たちは「時事通信社」と聞いてもあまりイメージがわからない様子であったが、「みんなが知っている新聞社にニュースを配信しています」という総局長からの説明を聞き、新聞の成り立ちについて知るきっかけとなった。

<授業内容>

- (ア) インターネットが普及した現在において新聞を読む必要性
- (イ) 真の国際人とは
- (ウ) 日本語の誤用

星田総局長の海外特派員としての経験から、生徒たちは外国での取材を活字にして伝える難しさを想像していた。その話の中で、「真の国際人」とは、決して「外国語が話せる人」などではなく、結局は「日本のことをよく知っている人」であることがわかった。

「日本語の誤用」については、「慥然」「にやける」「姑息」「敷居が高い」「檄をとばす」「姥桜」といった言葉について学んだ。特に、「姑息」については、「ずるがしこい」という意味は誤用で、本来の意味は「その場しのぎ」であると知った生徒たちは驚い

た様子であった。これらのような普段、新聞でも目にすることがある言葉を、間違った意味でとらえがちである実態を再認識できた。生徒たちは、「日本語を正しい意味で理解できるようにならなければと思った」と話していた。



4 まとめ

NIE実践校2年目として、本年度は国語や化学など、より幅広い教科・科目で、新聞を使った取り組みを行うことができた。また、普段の授業だけでなく、長期休暇中の課題でも新聞を活用できた。長期休暇に新聞を使う課題を出すことで、普段、新聞を家庭で購読していない生徒も、祖父母宅への帰省などによって、新聞を読む機会が増えるというメリットを生かすことができた。

普段から新聞を読む習慣がまだまだ身に付いたとは言えないのが現状であるため、今後も様々な場面で新聞活用の機会を設けるようにしたい。